
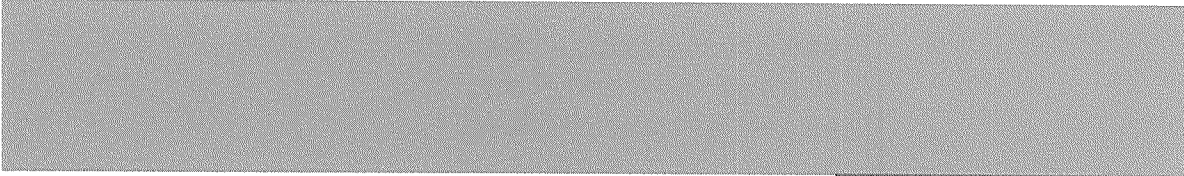


Essential Grammar for Communication



Masanori Terauchi



Mikio Kubota

Koji Kinoshita

Atsushi Koiso

Sachiko Kondo

Hirohide Mori



SANSHUSHA



はしがき

最近の大学英語教育では、「受信型の英語教育から発信型の英語教育への転換」という旗印の下に、オーラル・コミュニケーション重視の方向性が一層強調されてきている。一方、英文法の存在は、ともすればこうした方向性の対極に位置づけられ、オーラル・コミュニケーション重視の指導を妨げる要因の最たるものと目されがちである。しかしながら、日本の英語教育は、原則的には「外国語としての英語教育」(Teaching English as a Foreign Language)であり、その意味では、学習者が英語そのものに触れるインプットの量も限られ、さらに学習環境や学習開始年齢なども、言語習得にとって必ずしも望ましい条件とは言えない。こうした困難な条件下における日本の英語教育において、外国語としての英語をより効率的に習得するためには、「英語でコミュニケーションを、的確に適切に行うための基本的ルールとしての英文法」を学習することが必要であろう。

本書では、コミュニケーションに資するという視点から大学英文法をとらえ直し、第二言語習得理論、社会言語学、語用論、談話文法、情報構造理論などの分野の研究成果を積極的に取り入れた。特に日本人EFL学習者の言語習得における困難点に焦点をあて、学習者が比較的短期間にかつ効果的に大学英文法の基礎を習得できるように執筆・編集を試みた。

執筆にあたっては、6名の執筆者が関心の深いユニットの執筆を担当したが、草稿は全員で検討し最終原稿とした。原稿の完成には最善を尽くしたが、「丁寧さの階層性」などの扱い方がかなり微妙な項目も含まれているので、本書をご使用いただき、是非ご教示いただければ望外の喜びである。

最後になったが、英文の校正を主に担当された Michael Cormack 氏、Janet Johnson 氏に感謝の意を表したい。本書が、コミュニケーションに役立つ大学英文法の基礎の効果的な習得に役立つことを祈念する次第である。

1999年2月

編著者代表 寺内正典

本書の構成と特色

本書では、日本人英語学習者にとって、より効果的な英文法の習得を目指して、次のような構成と特色を取り入れている。

① 状況・文脈を重視した「イラスト付きのダイアログ」による文法項目の導入

各ユニットの学習・習得対象となる文法項目を、状況や文脈を重視して対話形式の中で導入している。また、状況設定や人間関係や登場人物の特性などを明確に伝えるために、それらがひと目でわかる楽しいイラストを付け、学習者が状況を適切に理解するのを効果的に支援している。

② 第二言語習得理論や語用論などの成果を取り入れた、簡潔で平易な解説

第二言語習得理論を初めとする外国語としての英文法習得に資する研究成果、例えば「文法の形式に焦点を当てた方法」(form-focused instruction) や「文法の意識化」(grammar-consciousness raising) などを積極的に取り入れ、簡潔でわかりやすい解説に腐心している。また、学習者の習熟度を勘案し、特に習得しにくい項目を丁寧に解説している。

③ コミュニケーションに資する多彩な「課題解決型」のExercises

日常の英語のコミュニケーションに必要とされる状況を設定し、その状況下での「課題解決」を目的とした練習問題 (task-based exercises) なども取り入れた。大学英文法の基礎をふまえ、学習者の主体的なコミュニケーション能力の育成を目指している。Exercises は、従来型の Exercises から発展して、Communicative Exercises へと無理なく円滑に取り組んでいけるように配慮されている。

※なお、解説にある*のついたものは、その例文が非文法的であることを示す。

CONTENTS

- Unit 1 文構造 / 7
- Unit 2 基本時制 / 12
- Unit 3 相 / 17
- Unit 4 態 / 23
- Unit 5 法助動詞 (1) / 28
- Unit 6 法助動詞 (2) / 34
- Unit 7 仮定法 / 40
- Unit 8 不定詞・動名詞 / 45
- Unit 9 現在分詞・過去分詞 / 51
- Unit 10 名詞・冠詞 / 56
- Unit 11 接続詞 / 62
- Unit 12 関係詞 / 68
- Unit 13 情報構造 / 73
- Unit 14 結束性 / 79
- Unit 15 名詞構文 (無生物主語構文)・名詞表現 / 84
- Unit 16 比較 / 88
- Unit 17 発話の機能 (1) 謝罪・断り / 94
- Unit 18 発話の機能 (2) 依頼 / 100

Unit 1 文構造



George: What's the matter, Takashi? *You look very tired.*¹⁾

Takashi: Well, *I have a part-time job*²⁾ at an Italian restaurant from five to midnight every day.

George: Oh, *that makes you tired.*³⁾ *I'm working in a language school*⁴⁾ twice a week, but it's not so hard. By the way, where is that Italian restaurant?

Takashi: In a hotel by the station.

George: Unfortunately I've never tried that restaurant.

Takashi: Really? Why don't you come for dinner with your girl friend? *I'll buy you some wine.*⁵⁾

George: *Sounds great!*⁶⁾

ポイント

ダイアログ中、まず1)ではGeorgeが第2文型(S+V+C)を使って、Takashiの疲れた様子を話題にし、2)ではTakashiは第3文型(S+V+O)を使って、忙しくアルバイトをしているのだと説明する。3)ではGeorgeが第5文型(S+V+O+C)を使って、そのアルバイトがTakashiを疲れさせているのだと言い、4)では第1文型を使って自分がしている仕事の話をする。Takashiは自分の働いている店にGeorgeが入ったことがないというので、5)では第4文型(S+V+O+O)を使って、来ればワインをごちそうするからと言う。それを聞いたGeorgeは、第2文型の主語(That)を省略した形を使って、乗り気な返事をしている。

1. 英語の節と句

英語の文は、節、句、語に分類できる。節は、主語とその人称、数および時制などによって変化する定動詞(finite verb)を含み、単独で文を構成したり文の一部となる。また、節は句という主語や定動詞を含まない単位に分類される。名詞、動詞、形容詞、副詞、前置詞のそれぞれが、単独あるいはほかの語とともに句を形成する。例えば、(1)は3人称単数の主語Heと現在形の定動詞wantsを含む節からなる文である。主語のHeと目的語のa new carは、名詞句、wants to buy a new carとto buy a new carは動詞句である。動詞(to) buyは、主語の人称や数、時制にかかわらず、変化しない不定動詞(infinite verb)である。

(1) He wants to buy a new car.

2. 基本 5 文型

ダイアログの1)~5) が示すように、英語には5つの基本文型 (Basic Sentence Patterns) がある。つまり文型は、定動詞の種類が目的語 (Object) や補語 (Complement) を伴わない自動詞なのか、あるいは目的語を伴う他動詞であるかによって異なる。目的語は他動詞が表す動作、行動、知覚などの対象となる名詞や代名詞であり、補語は主語や目的語の状態、性質、特徴(地位や職業など)、内容などを補足説明する名詞や形容詞である。基本文型に関する英語と日本語の大きな違いの1つは、前者では動詞が常に主語の後に続くのに対し、後者では文の最後にくることである。

2.1 第1文型 (S+V) : 主語+自動詞を含む

- (2) I don't know how to work this machine. (第3文型)
 (3) My father smokes (cigarettes) heavily.
 (4) The window opened. (=Someone opened the window.)
 (5) The rainy season has come.

ダイアログ中の4) や(2) の work のように、自動詞、他動詞両方の機能を持った動詞が多い。(3) の smoke を例に挙げると、いずれの場合も主語 (Subject) と動詞 (Verb) の意味関係が変わらず、自動詞では意味上の目的語が暗示されている。一方、(4) の open のように自動詞として使用すると文法上の主語が意味上の目的語となるものがある。つまり、(4) は窓が独りでに開いたのではなく、誰かが開けたということになり、動作の主である意味上の主語が暗示されている。また、(5) の come のように自動詞の機能にほぼ限定される動詞もある。

2.2 第2文型 (S+V+C) : 主語+自動詞+補語を含む

- (6) I'm glad that you came to see me.
 (7) John became an actor.
 (8) My question is why the prime minister will not resign.

(6) のような形容詞節、(7) や(8) のような名詞句・節がそれぞれ補語として主語の状態、特徴、内容などを補足説明している。

2.3 第3文型 (S+V+DO) : 主語+他動詞+直接目的語を含む

- (9) I couldn't identify him at the party.
 (10) Lucy said that she went to the movie.

ダイアログ中の2) や(9) のような名詞句や代名詞、(10) のような名詞節は、直接目的語 (Direct Object) と呼ばれ、他動詞が表す動作、行動、知覚などの直接の対象であり、第2文型で補語が主語についての補足説明をする働きとは異なる。

2.4 第4文型 (S+V+IO+DO) : 主語+他動詞+間接目的語+直接目的語を含む

- (11) George often tells Mary that he knows everything about wine.
 (12) I'll buy some wine for you. (第3文型)

ダイアログ中の 5) の you や (11) の Mary は、第3文型でみられた直接目的語が示す物の受け取り手や内容の聞き手となる間接目的語 (Indirect Object) である。すべての他動詞が2つの目的語を続けられるわけではなく、(10) の said などは Lucy said to me that... となる。また、5) と (12) のように、間接目的語と直接目的語の位置が入れ代わる場合は、間接目的語の前に前置詞が必要となる場合がある。

2.5 第5文型 (S+V+DO+C) : 主語+他動詞+直接目的語+補語を含む

(13) He named *his dog Joe*.

第2文型では、動詞の直後に補語が続き、主語についての補足説明をしていたのに対し、第5文型ではダイアログ中の 3) や (13) のように、動詞の後に直接目的語、その目的語について補足説明をする形で補語が続く。第4文型の S+V+IO+DO という形と表面的には似ているが、直接目的語には、間接目的語についての補足説明をする働きはないので補語とは異なる。

2.6 その他の文型

(14) Your T-shirt is *in the washing machine*.

(15) We saw *the president jogging on the street*.

(16) The boy expected *his parents to love him*.

(17) Richard promised *us to repair the computer*.

基本5文型に類似し、頻度の高いものの例として、(14) では場所や時間を表す副詞句が第2文型の補語に、既に言及した (1) の不定動詞句 to buy a new car は第3文型の直接目的語に働きが似ている。また、(15) の分詞 jogging は第5文型の補語に、(16) の to love him は、第4文型の直接目的語に似ており、その前に位置する the president と his parents が行動の主体である。ただし、(17) のように us ではなく主語の Richard が行動の主体となることもある。

2.7 主語や目的語の省略

(18) (I am) Sorry I was late.

(19) (Do you) want to smoke?

(20) John bought a book and (he) read *(it) soon.

(21) You may use my desk if you need to (use it).

英語では、原則として日本語によく見られるような主語や目的語の省略は不可能である。ただし、ダイアログ中の 6) および (18)、(19)、(20) のように省略されている主語が文脈や文構造から容易に理解できる場合は例外である。目的語を単独で省略することは (20) のような場合でも不可能であり、(21) のように動詞句の一部としてのみ可能である。

4 次のダイアログを読み、【 】内の語句を使って下線部を完成させなさい。

Dialog 1

Emily: Look, Toshi. This sportscar _____ . 【great】

Toshi: Do you think so? This is my car.

Emily: Wait a minute! I know that _____ . 【be】

Toshi: Hey, I'm not making a joke. This is really mine.

Emily: OK. _____ for this? 【pay】

Toshi: About 20,000 dollars.

Emily: That's a huge amount of money!

Toshi: Well, _____ it to me. 【lend】

Emily: Your father spoils you.

Toshi: Right. He _____ a "spoiler". 【call】

Dialog 2

Emily: Hi, Toshi. How's your car?

Toshi: Not so good. _____ repairing now. 【need】

Emily: What's the matter?

Toshi: I _____ . 【sure】

I asked _____ the engine. 【check】

Emily: Hm... Don't worry. The mechanic will fix it.

Toshi: _____ . 【hope】

Emily: Yeah.